

Topics福島は、原子力機構が行っている福島対応などの活動を紹介するものです。

## 広野町立広野中学校で放射線による健康への影響を説明

### 放射線に関するご質問に答える会



原子力機構は2月14日、広野町立広野中学校で、「放射線に関するご質問に答える会」(答える会)を行った。答える会は、園児や児童など小さなお子さんに対する放射線の影響への不安が特に大きいことを踏まえて、福島県内の保護者や学校の先生方に放射線についての科学的な理解を深め、不安を少しでも和らげていただくために企画したもの。この会には原子力機構の放射線・被ばく管理などの専門知識をもった職員を派遣しており、平成23年7月に始まって以来、今回

で220回目の開催となる。

広野町は、福島第一原子力発電所事故により、震災前に約5,500人いた町民のほとんどが町外に避難したが、緊急時避難準備区域が解除されて以来、精力的に除染作業を行っており、今までに居住区域での除染はほぼ完了している。町の小・中学校も昨年8月27日に授業を開始し、現在、町に帰還している人は約650人。徐々にではあるが、町に戻ってくる人が増えている。昨年11月より原子力機構は、町内の学校に通う生徒や保護者の皆様の不安を払拭する機会になればと、広野町の教育委員会と連携して答える会を行っている。

今回は、広野中学校の生徒と教員、保護者約50名を対象に、まず原子力機構の医学博士、生田優子(=写真)が放射線と健康への影響をテーマに、放射線の健康への影響は、放射線の種類や量、線量率によって違うこと、わずかな放射線の量に比例してがん死亡率が増えるわけではないなどの説明を行った。その後、放射線を確認する方法やどのようなところで放射線が発生しやすいのか、また放射性物質から身を守る対策など事前に生徒から寄せられた質問を中心に一つずつ解説した。

校長先生は、「放射線に関する情報がありすぎて不安になってしまうが、この会が不安が和らぐきっかけになれば」と語った。

#### 広野町

広野町は温州ミカンの花が咲き実る北限の温暖な地で、東に太平洋を臨み、西にあぶくま山系を懐き、美しい海・山・川と豊かな自然に恵まれた町です。このような風景は有名な童謡「とんぼのめがね」でも唱われており、「童謡の里」とも言われています。(下の写真は広野町のHPから引用)

